



一幅の絵

この写真を見て何を感じ、想うだろうか…

今から五十年前の、八王子市郊外の堀之内周辺である。その頃の堀之内は、今日のように機械化された農作業がそれほど進んではいなかった。しかし、農作業は重労働だったが、空気だけはいまより遥かに綺麗なものだと言えよう。

多摩の横山といわれる丘陵地は一部残されているものの、付近の丘陵地は年々その姿を変え、巨大な都市へ変貌している。更に昭和三十九年（一九六四）八月、由木村が八王子市に合併されてから開発は凄まじく、大手企業などの進出や都会から移住した人口増加などにより、僅か五十数年間のうちに田畑や山林は、半分近くに激減したという。

◇散歩のみどころ

京王相模原線南大沢駅から長池公園、蓮生寺公園付近を経て、隣りの堀之内駅までの凡そ5kmの行程。

南大沢駅から中郷公園を通り、南へと歩くと大平公園である。ここから東へ少し歩くと、自然が残る清水入緑地へと続く。森林の遊歩道を南へ歩き、緑地を出て交差点を渡ると、長池公園に入る。この公園は、自然を活かしつつ一部人工的に作られた公園である。園内を散歩し、長池見附橋を潜り、姿池を出るとせせらぎ緑道に繋がる。暫く歩き、日枝神社へ。参拝後、都道に出て古刹の蓮生寺に到着。かつては寺領であった寺の裏が蓮生寺公園である。園内には吊り橋などがあり、自然たつぷりの森林公園である。そこから、京王線を潜り、松木七郎が眠る浅間神社へ。戻りながら、金精様を拝し、再びせせらぎ緑道を通って京王堀之内駅へ。ここで解散。

●堀之内と別所の地名考

堀之内は、江戸期から明治期にみられる村名。平安期に武士団が登場したところ地元豪族や武士団の館周辺に掘られた堀の内側であったことに由来する。

堀とは武士の館や城郭において防御のためにつくられた空堀、水堀、環壕のことをいう。

八王子の堀の内にも豪族や横山党などの館があったところから「堀之内」の地名が付けられたと思われる。

また別所は、江戸期から明治期にみられる村名である。村内には鎮守の山王社と蓮生寺という寺があり、村名の発祥といわれる。蓮生寺には薬師堂があり、新編武蔵風土記稿に、「・・・薬師堂のある所を多く別所と号す・・・」と記してある。そのいわれから別所と名付けられたと思われる。

●松木・別所の沿革史

松木地区の場所は、京王線堀之内駅西側一帯を指し、バス停名「浅間神社、フェアヒルズ入口」の丘陵にあたり、多摩ニュータウン開発以前からの住民が多く住んでいる。開発が進むと昔ながらの家々を壊して新築し、また農業をやめる家が多かったという。この町の一角に、昔から浅間神社と、地名の由来となったとされる松木七郎の墓、および宝篋印塔が残っている。

江戸期には、由木郷の松木村とい、二百七十七石二升二合の旗本領であり、平岡中務の知行地だった。その後、明治十一年（一八七八）郡区町村編制法により松木村として起立した。

別所地区の場所は、京王堀之内駅南側一帯を指す。多摩ニュータウン開発が進められる前は、丘陵地帯であり住民もほとんどいなかった。開発後は、住宅都市公団（当時）東京

都供給公社が建設した分譲住宅が多く建つ住宅街となった。里山を保全した長池公園付近には、東京四谷にあった四谷見附橋を移築した。

その新しい町に蓮生寺と日枝神社（山王社）がある。

江戸期の昔は由木郷の別所村といひ、百四十八石一斗二升の旗本領で、勝田綱吉の知行地と四石五斗の寺院（薬師寺）領だった。その後明治十一年（一八七八）郡区町村編制法により別所村として起立した。

明治二十二年（一八八九）四月一日町村制の施行に伴い、松木村も別所村も近隣の十一村（松木、別所含む）の合併で由木村が誕生する。字名も由木村大字松木、同大字別所となった。昭和三十九年（一九六四）八月一日、由木村は八王子市に編入。村の大字はなくなり八王子市松木、八王子市別所と変わり市の行政地名として残ることになった。

● 由木村の沿革史

室町期から江戸期に発生した柚（由）木郷の十一ヶ村、（上由木、下由木、南大沢、松木、越野、中山、堀之内、別所、東中野、大塚、鑑水）が明治二十二年（一八八九）四月一日、町村制施行に伴い合併し、由木村が成立した。

戦後の町村合併促進法の施行で昭和二十九年（一九五四）八月十九日、東京都知事は都下関係市町村に合併計画策定に関する諮問を行った。

都知事に答申した審議会は、三つの試案の一つ、多摩村との合併を持ちだした。これを受けて由木村は、村議会で検討した。その結果、「地形、地勢上住民に反対意向多く目下賛成しかねる。尚拡大した計画なれば、種々の困難を克服して努力を致したい」と議決を答申した。

その後昭和三十七年（一九六二）五月十八日、由木村は村議会協議会において、正式に八王子市への合併

を申し入れる協議をしたが具体的な結論は出なかった。

村内には日野町との合併を推進する動きが活発になり、臨時村議会が招集され、七対五の差で日野町へ合併の申し入れをしたが、日野町の回答が遅れた。

結果、日野町の不信をなじり八王子市との合併を実現すべしとする考え方と、日野町へ合併したいとする村民との間で村内を二分する流血騒動が巻き起こった。

村のあちこちに反対の看板を掲げ、「八王子に付くのか」、「日野に付くのか」との論議がなされた。村議会の質疑の場では、賛成派と反対派の乱闘で警察官が出勤し鎮圧する騒ぎにまで発展した。村内の間でも、「八王子市に合併賛成」、「これからの発展は日野市だ」と二者選択のスローガンを掲げたり、村民同士間でも近所付き合いに亀裂が入るという事態に陥った。八王子、日野両市の職員もあの手この手で住民に誘いをかけ、

互いに腹の探り合いを繰り返した。一触即発の事態に備えて、約二百五十人の警察官が警戒にあたるという事態に至った。

合併を争点とした激しい戦いが続いたが、住民投票により、昭和三十九年（一九六四）八月一日、由木村は八王子市へ編入と決まった。由木村の村名は消え、江戸期以来の十一ヶ村、旧村名は字名で八王子市の行政地名として残った。

東京二十三区では、深刻な住宅難にともなって、地価は著しく上昇し、都民は地価の安い郊外（三多摩郡や近県）へ宅地を求めて流出していった。結果、各市町村は急速に宅地造成を進めた。また、民間不動産業者の乱開発によるトラブルが後を絶たず、東京都は、居住環境の良好な宅地を大量に供給することを目的に、昭和四十年（一九六五）「新住宅市街地開発事業」の一環として多摩ニュータウンの開発計画を決定した。

多摩ニュータウンの第一次入居地

区は、昭和四十六年（一九七一）三月、多摩市の諏訪、永山地区である。

昭和四十六年（一九七一）由木地区が土地区画整理事業の対象になり、昭和五十一年（一九七六）鹿島、松が谷地区から由木地区の初入居がはじまった。

しかし、開発と入居が進むにつれ、莫大な資金が投入され、地元住民の中には問題もおこった。土地の転換や家屋の移転、専業からの転職などで、億万長者になった人もいれば、悪徳業者に騙された人、ギャンブルと酒に溺れた人などがいたという。

その後、由木地区の開発は平成八年（一九九六）に終了した。未開発用地は売却され、民間業者などの開発による分譲マンション等が続き建設された。由木地区の街並みも大きく変わり、新しい住民が増えていった。かつて村を二分して亀裂が入るほどに争った合併騒動は、今も歴史の一部となっている。

①京王相模原線 南大沢駅

南大沢二一ー六

昭和六十三年（一九八八）五月二十一日、南大沢駅は開業した。橋上駅方式で、中央の半月形屋根がシンボルとなっている。改札口広場から駅のホームへは、いち早くエスカレーターが設置された駅でもある。

また駅周辺には、首都大学が隣接し、公共施設、スーパー、飲食店、病院などがあり、自然を活かした近代的な街となっている。



南大沢駅

②お薬師様と半僧坊様

南大沢二

南大沢駅を出て、直ぐに南側の道路を渡ると散歩道がある。東へ少し歩くと薬師堂に着く。堂内には、鎌倉時代の作といわれる高さ五十八cm、一木造りの東方薬師瑠璃光如来と卵形の自然石、高さ二十五cmの半僧坊様が安置されている。お堂の外にも、念仏供養塔、馬頭観音、千手観音などが安置されている。

このお薬師様や半僧坊様は、現在の首都大学付近にあった東光寺に安置されていたが、明治時代の廃仏毀釈により廃寺となったので、地元の田倉氏が自宅の土地を提供し、昭和まで守り続けていたという。

その後、南大沢周辺も多摩ニュータウン建設事業に伴い、現在の地に新しい堂宇を建立し奉祀した。現在は緑豊かな公園として整備されている。現在も、十月十日、古くからの住民がお籠もりの行事を行っている。



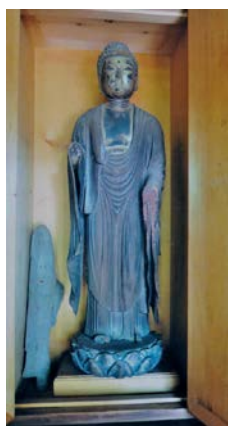
馬頭観音



念仏供養仏



南大沢の薬師堂



薬師如来

●**薬師如来**
この仏は、薬師経に説く東方の浄瑠璃世界の救主。菩薩であったころ十二の大願を発して成就し、衆生の病苦を救い無明の痼疾を癒すという。日光、月光菩薩を脇侍として三尊をなし、十二神将を従えている。通常は左手に薬壺を持っているが、両手首は失われている。薬師瑠璃光如来、薬師仏ともいう。



薬師堂外の仏像等

●半僧坊大権現

中国が元と呼ばれていた時代、臨済宗の学僧元選が元での留学を終え、幾多の苦難の末日本へ帰国することになった。その途中、暴風雨に見舞われ船が難破寸前になりかけた時、僧ともつかず、天狗かとも見える異様な人が現れ、「我が指示に従い安心して船を進むべし、無事本邦に到着せむ」と舳先に立ち水先案内をしたという。無事に九州に辿り着いた元選は、その足で教化しながら旅を続けていた。三河奥山に至った時、領主奥山六郎朝藤に懇情され、修行のため奥山に登られたという。すると僧の様な天狗の様な男が現れ、弟子にして欲しいと申し出たという。男を見て元選禅師は、船上で水先案内をした男とみて、「汝は半ば僧に似て僧に非ず、汝に半僧坊の名を授与せん」と申され、以後半僧坊と呼ばれるようになったという。

元選禅師が遷化された後、半僧坊

は禅師に代わって一切衆生を済度守護された。入滅後。半僧坊大権現として方広寺の守護神となったという。現在、深奥山方広寺は臨済宗方広寺派の大本山となっている。



半僧坊大権現

なかごう

②南大沢 中郷公園

南大沢二・二六

南大沢駅南へ徒歩三分、駅前公園といったところ。面積は、十五・四一八㎡、平成五年四月一日開園。園内入口には、斬新なトイレや夏季用人工噴霧器が設置されている。人工石を敷き詰めた広場、斜面を利用した芝生の原っぱ等があり、各公共施設への利便性も考慮した公園となっている。



南大沢中郷公園



中郷公園から見た南大沢駅方面
前方は駐車場(Southern Winds ビル)

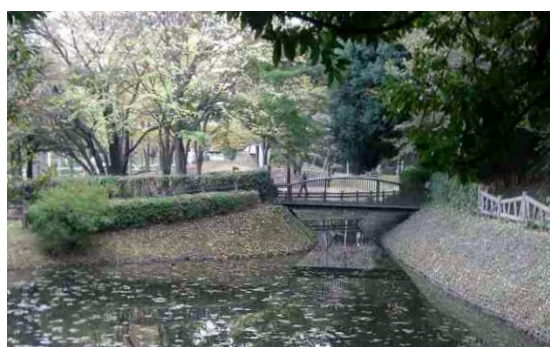
③大平公園

南大沢三、十一

丘陵地の自然を利用した公園。面積は、三十四・五六五㎡、昭和五十九年（一九八四）十一月三十日開園。見晴らしの良い丘には休憩用の東屋「ひねもす亭」があり、低地には広場やテニスコート等の設備がある。また、園内の中心部には庭園式の池があり、睡蓮が繁殖し、亀や鴨が生息している。



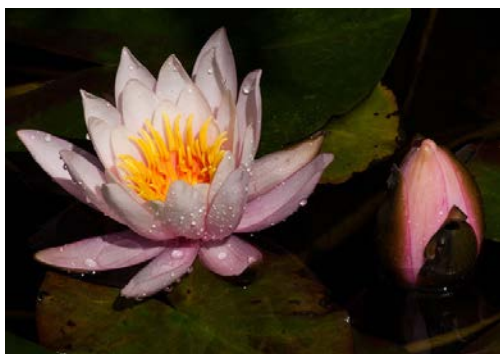
頂上にある東屋 ひねもす亭



大平公園の池



東屋から見た景色
右の茶色いビルはフレスコ南大沢オフィス棟



睡 蓮



大平公園睡蓮

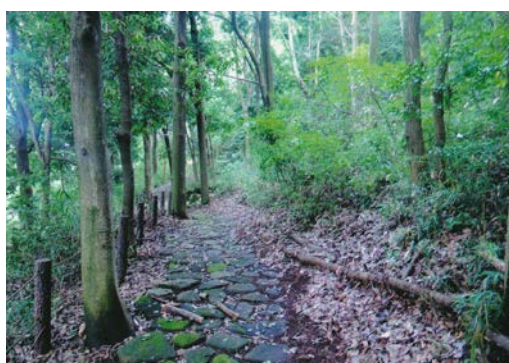
④ 清水入緑地

南大沢三・一三〇

大平公園から更に東へ遊歩道を歩くと、清水入緑地がある。面積は七十四・八四九²m。南北に長く、平成十二年四月一日開園。森の中に遊歩道が整備され、自然をたつぷり残した緑地である。深山幽谷の趣があり、隣接する住宅や一般道路の喧噪も気にならない程。初夏には木々を渡る風がとても心地良い。



清水入緑地



雑木林の散策路



清水入緑地

⑤ 長池公園

別所二・五八

自然保全型の公園で、面積は百九十四・三三五²m、平成十年四月一日開園。八王子市の公園としては、上柚木公園、寺田緑地に次ぐ三番目に大きな公園である。

園内は、南・北エントランスと外周緑地、観察、体験、特別保全の六ゾーンで構成されている。特に公園エントランス部分には、東京の「四谷見附橋」が「長池見附橋」として復元されている。基本設備として、



観察塔

トイレ、水道、自動販売機、売店、駐車場などの完備は勿論のこと、各ゾーンごとに特徴を活かした里山が形成された多目的の公園である。また、浄瑠璃姫伝説や大太良法師等の伝承が残っている処としても興味深い土地である。



やまざとひろば（長池公園内）

●南エントランスゾーン

公園南側の玄関口。ここは、伸びやかで開放的芝生広場「やまざと広場」と、小高い展望スペース「夕日展望台」がある。花木や低木樹などが適所に配されている。トイレ、休憩所、水道、二十四時間駐車場が完備されている。

●外周緑地ゾーン

昔からの雑木林と、雑木林を復元する植栽が施された緩衝緑地帯。たたずむ木々の間から、さやさやと風が吹き抜けて来る。

●特別保全ゾーン（非公開）

長池周辺には、ハンノキ林の群落などの貴重な自然環境が残っている。湿地と、それを取り囲む雑木林は、カワセミや野ウサギなど多くの野生動物の住処となっている。その為、サンクチュアリ（聖域）として、一般の立ち入りが禁止されている。

●長池（浄瑠璃姫伝説）

造成された多摩ニュータウンの一角に、唯一残された里山と長池がある。その周りは雑木林で囲まれているが、中程に緑色の水面を見せているのが長池である。時の流れを封じ込めているような幽玄な佇まいを見せている。この池にはひとつの哀しい伝説が伝わっている。

奈良時代の八世紀はじめ、相模国大磯の海面に三日三晩光り続ける不思議な場所があった。漁師が光る物をみつけ、引き上げると朽木の薬師如来像だった。



夕日展望台

後世、鎌倉期から室町時代にかけての十四世紀始め頃、この薬師如来像の話しを聞いた相模国・平塚城主岡崎四郎義実は漁師から如来像を譲り受けた。霊験により子が授かるようにと拝み続け、幾年後か娘を授かった。この娘が、後に浄瑠璃姫と呼ばれたのである。娘（浄瑠璃姫）は成長し、武蔵国小山田荘の小山田太郎高家に興入れ（側室）が決まり、四朗義実は姫に薬師如来像を持たせて嫁がせた。

小山田高家は、延元元年（一三三六）湊川の合戦で、新田義貞の替玉となり討死した。小山田荘は、北条一族（得宗）に攻められ、家臣は敗走した。浄瑠璃姫は夫高家の死を悲しみ、父から送られた薬師如来像を背負って、侍女十三人と共に長池に身を沈めたという。

それから二十数年後の南北朝期の中頃、別所蓮生寺の住職教山が長池の周りを歩いていると、池に光る物を見つけた。弟子にすくい上げさせ

ると薬師如来像だった。住職は寺に持ち帰り、薬師堂を作って安置し、懇ろに供養し続けたといわれている。この仏像が、別所蓮生寺の薬師如来像といわれている。



浄瑠璃姫伝説が残る長池の水源



浄瑠璃姫の碑

●観察ゾーン

雑木林や湿地が、変化に富んだ自然環境を作りだしている。昆虫や動植物を観察出来るデッキなどが作られ、四季折々の自然を楽しみながら散策できるエリアとなっている。



カタクリ観察路

●体験ゾーン

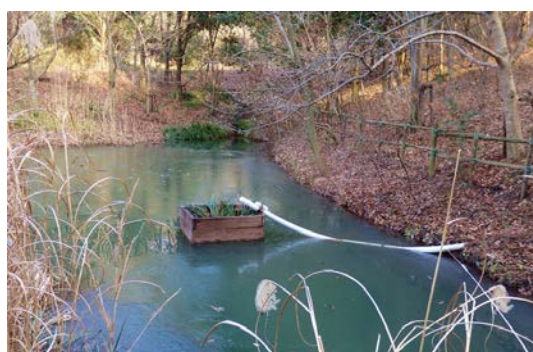
里山の原風景が再現されている。長池里山クラブにより、稲作、畑作、雑木林の手入れ、炭焼きなど、里山活動が行われている。



炭焼き小屋



稲作体験ゾーン



トンボの池



水車小屋

●北エントランスゾーン

体験学習施設である長池公園自然館を核に、「芝生や草地」、「築池」、「姿池」などが配置された多目的広場である。農業用ため池として利用する築池と、現代的デザインの姿池が見事に調和している。刈り残された斜面の草地は、虫やトカゲ、鳥たちの大切な生息地となっている。

中心をなす自然館は、平成十三年（二〇〇一）三月竣工され、「長池ネイチャーセンター」と呼ばれている。里山の自然を利用して造られた里山文化の継承と、住民の里山体験学習を目的とした施設である。館内には、里山に関する展示室、企画展示室、工作や工芸の工房、会議室、ネイチャークラフト教室やこども科学実験教室等がある。部屋の貸出もしている。野外には雑木林の中に遊歩道があり、田植えや炭焼きなどの自然体験もできる、管理と運営は「NPO・FUSION長池」が行っている。



ネイチャーセンター



築池（つくいけ）

見附とは、枡形を有する城門の外側に面し、番兵が見張る場所のこと。江戸城には三十六の見附があったといわれているが、現存するのは四谷見附、赤坂見附、牛込見附などである。かつての四谷見附橋は、大正二年（一九一三）九月竣工。上路式鋼製アーチ橋で、ネオバロック調の文明開化が偲ばれる橋として親しまれていた。この四谷見附橋が平成五年（一九九三）十一月、近代住宅が立

● 長池見附橋



ネイチャーセンター内部



長池見附橋と姿池
（旧四ツ谷橋）

ち並ぶ公園都市別所の地に移築された。四谷見附橋は「長池見付橋」と命名され、橋の下は長池から湧き出る水を利用した人工池（姿池）となっている。
里山が残る長池ネイチャーセンターと共に、若いカップル、家族連れの行楽スポットである。



長池見附橋と姿池



長池見附橋

人工的に整備された水路。全長一・七km。長池公園から京王相模原線堀之内駅近くまで、別所の中心を流れている。その造形はさまざまで、里山風の場所、溪流を思わせる場所、タイル張りの現代的な遊歩道等々が続いている。緑道には、柳、コナラ、オオムラサキツツジなど低高木の木々の他、地域ボランティアの手で花壇が造られ、花が植えられている。

●せせらぎ緑道



戦前の四谷見附



せせらぎ緑道のアジサイと水鳥



せせらぎ緑道

⑥ 日枝神社

祭神 国常立尊

別所一・三三

(く)にのこたちのみこと)
何時の頃から祀られているのか不明であるが、黒い鳥居を潜ると、境内は樹木が多く清涼感に浸ることができる。

社殿の屋根には神社特有の千木も鯉木(勝男木)もなく、小さな神社である。稲荷社が二つあり、奥の石祠には、「宝暦五乙亥仲秋吉日」と刻まれている。右手の斜面にはシラカシが生え、別所の里の鎮守社となっている。



日枝神社



今上天皇陛下
御即位記念植樹



御稲荷様



奥伝と御輿

⑦ 由木山蓮生寺

宗派 曹洞宗

別所一・一九一十

本尊 毘盧舍那佛(びるしゃなぶつ)
開山 円浄坊といわれる
開創 寿永二年(一一八三)

本尊毘盧舍那佛は、木造寄木造で身の丈二尺八寸、東京都の文化財に指定されているが非公開。

「別所の薬師さま、目の薬師さま」として知られている。この薬師如来の製作年代は不明。

平成六年(一九九四)、火災を被り焼失している。現在のお堂は、焼け残った木片を集めて復元されたもの。毎年元日と十月十二日に、祈祷会が行なわれている。

薬師堂の左側には「寛永拾貳乙亥年(一六三五)」と刻まれた、市内最大といわれる宝篋印塔が建っている。その傍らには、小さな地藏尊が三体立っている。



毘盧舎那佛



蓮生寺本堂

● 蓮生寺の宝篋印塔

この宝篋印塔は、寛永十二年（一六三五）に建てられたもの。裏には、宮碑善右衛門、近藤六右衛門等四人の名が刻まれているが、詳細は不明である。

形式的には、関西系の装飾宝篋印塔に属し、高さ約三・七m、形の整った市内最大級の石塔である。

当初この宝篋印塔は、薬師堂裏の山腹に造立された。しかし、大正十二年（一九二三）九月一日、関東大



薬師堂



宝篋印塔

左：背面

右：正面

震災の際に倒壊してしまった。後に、現在の場所に再建したものである。
宝篋印塔は、唐の沙門不空三藏（中国の密教を大成させた僧）の訳による「一切如来心秘密全身舍利宝篋印陀羅尼經」の教えの中から出た名称である。

⑧蓮生寺公園

別所一―二十八―

自然林を残し、丘陵地をそのまま保全して作られた公園。面積は、六十七・三七一²m。公園内の出入り口は何力所があるが、北側から公園内に入る場所にはめがね橋が架けられている。近代的なこの橋は、京王線の電車から見ることができる。

園内の散策路は、たんぽぽの道、たんけんの道、ひぐらしの道等が縦横に巡らされている。丘陵地を利用した園内には、吊り橋の掛かった流れもある。その他、展望台やふれあいの丘がある。住宅地から一步入った間近で、豊富な木々や草花、鳥の鳴き声などに触れることが出来る自然公園である。

展望台からは、ニュータウンの街並みや近隣の家並みが見え、天気次第では都心のビルが見えるという。蓮生寺公園南側からは、長池公園近くまで、浄瑠璃緑地が続いている。



めがね橋



蓮生寺公園



どんぐりの道



吊り橋



見晴らしの道



園内道標

勸請 松木七郎師澄
祭神 木花開耶姫命
室町時代初期、松木七郎師澄は鎌倉公方足利持氏の家臣で、この地松木の山里を開拓した。そして、駿河国富士宮の浅間神社を松木村に勧請創始したと伝えられる。
浅間神社は、富士山に向けて建てられている。社地は百八十坪。昔は松の大木が茂っていたが、明治の末

松木五四―一五

⑨ 松木の浅間神社



園内の北入り口



奥 伝



浅間神社

頃より老木のため次々に伐採され、大正十二年（一九二三）の関東大震災により社殿、鳥居とも倒壊した。現在の社殿は、その後再建したもの。

●松木七郎の宝篋印塔

八王子市指定有形民族文化財である。浅間神社参道裏階段の下に、松木七郎師澄の墓と言われる宝篋印塔がある。碑面に「永和二年（一三七六）丙辰」と刻まれていたと新編武蔵風土記稿に記されているが、現在は風化して判読できない。松木七郎師澄は、藤原氏から出た鎌倉公方持氏の家臣で、松木村を開拓後、この地方の領主になったという。



松木七郎の宝篋印塔

●松木の焰魔堂

浅間神社裏階段脇に焰魔堂がある。堂内には、閻魔大王を中心に九人の大王と属将が安置されている。本来、閻魔大王は十八人の属将と八万の獄卒（鬼）を率い、人の生前の行為を審判するといわれている。閻魔は、インドの神格マヤのこと。中国では、道教と混ざって十王の一つとされ、日本では一般化して地藏菩薩と習合し、信仰の対象となった。



閻魔堂



閻魔大王



閻魔大王を中心に九人の大王と十八人の属将、八万の獄卒（鬼）

⑩金精様と石仏群

金精様とは男性の男根のこと。

縄文時代には、石棒という男性祭器があった。いっぽう女性を祀ったものは、土偶である。縄文時代から連綿とつづいてきた民間信仰である。

堀之内の金精様は万延二年（一八六一）と刻まれている。金精様の祠の左側には、五体の石仏がある。真中が大乗妙典六十六部供養塔、「天保三壬辰年（一八三二）四月十七日」とある。その両脇に庚申塔、その左隅に丸彫りの地藏坐像、右隅に船彫りの地藏立像。いずれも年号は読めず、蓮生寺旧道の石仏を集めたもの。



金精様



中央：大乗妙典六十六部供養塔
両脇：庚申塔
右：地藏坐像
左：船彫地藏立像



金精様と石仏群

⑪京王堀之内駅

京王堀之内駅は、昭和六十三年（一九八八）五月二十一日、京王相模原線の多摩センター駅と南大沢駅間の暫定開通にあわせて開業したもの。今は、近隣の住宅、工業誘致に伴い、地域の開発が進み、重要な駅として利用されている。



京王堀之内駅

◎ 參考資料

- ・新編武蔵風土記稿
- ・八王子寺院めぐり
- ・八王子市史
- ・八王子事典
- ・八王子市公園課資料
- ・長池公園自然館資料
- ・図説歴史散歩事典
- ・武蔵野名所図絵
- ・山川日本史総合図録
- ・国土地理員地図―メモ―
- ・インターネット各ページ
- ・八王子市郷土資料館資料
- ・八王子市地図
- ・八王子市観光マップ
- ・昭文社

[illegible]